|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| **学校経営推進費評価報告書（２年め）** |
| **１．事業計画の概要** |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立長野高等学校　全日制の課程 |
| **取り組む課題** | 英語教育の充実 |
| **評価指標** | 英検準２級・２級の合格者数G-TEC for students(スコア型英語テスト）における目標スコアの達成率 |
| **計画名** | 「英語による発信能力（話す・書く）」育成プロジェクト |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** |  |  |  |
| **学校経営計画の****中期的目標** | 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀をしなやかに生きる生徒を育成する。（１） 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、**論理的思考力・課題解決能力・探究力**の育成を図る。ア 少人数展開を行い、**アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を実施**することにより、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践する。ICT機器等を活用し４技能をバランスよく伸ばす。**英検・G-TEC等の試験**を積極的に活用する。 |
| **事業目標** | 「読む」「聞く」「話す」「書く」４技能のうち、特に課題がある「話す」「書く」の発信能力を向上させるため、民間の英語教育関連会社(ベルリッツ）と連携し、共同で指導法および教材開発を行う。また、そのための学習環境を整える。幅広い話題について発表・討論・ディベートなどを行い、言語活動を豊富に体験させることで、情報や考えなどを的確に理解し伝える能力を高める。英検準２級・２級の合格者数を毎年５％ずつ増やすとともに、G-TECの目標スコア達成率を平成29年度に10％、平成30年度には15%、平成31年度には20％にする。 |
| **整備した****設備・物品** | 可動式机12台可動式椅子30台プレゼンター６台書画カメラ３台ホワイトボード一式（２面） |
| **取組みの****主担・実施者** | 首席英語科教員全員授業のあり方研究会メンバー（各教科代表者）実施者：全員 |
| **本年度の****取組内容** | * 可動式机と椅子、プロジェクター、ホワイトボードを完備したALルームを、通常授業及び、放課後の「英語トレーニング講座」で活用し、アクティブラーニングを実施した。
* 特に「英語トレーニング講座」では、４技能のうち「話す」「書く」を強化した内容で開講した。
 |
| **成果の検証方法****と評価指標** | * 英検２級の合格者数：30人／準２級の合格者数：60人
* G-TECの目標スコア（500点）達成率10％
 |
| **自己評価** | * H30年度の英検の資格保有者は準１級：３人／２級：40人／準２級：94人 （◎）
* G-TECに表れた成果は、国際教養科２年生500点達成率17％であったが、普通科１年生は３％に留まった。 （〇）

「英語トレーニング講座」については、講座終了後のアンケート結果によると、「発信力がついた」と答えた生徒は94％であったが、特に指導法や教材開発につながる内容とは言えなかった。 |
| **次年度に向けて** | * 引き続き、民間英語教育産業のノウハウを活用できるよう、講師を厳選したい。ただ、予算が委託料でなく報償費のみであるので、個人の資質に寄るところが大きく、教材開発等の目標達成はかなり困難であると予想される。
* 放課後に希望者を募ってトレーニング講座を開講することで、生徒のモチベーションを引き上げ、発信力を高める機会となっていることは確かである。英検の資格保有者の増加やG-TECの得点向上については、しっかりと成果を出したい。
 |